

尼崎市総合計画審議会第4回市民部会を開催しました

日時：令和2年12月18日（金）18時30分～20時30分 場所：尼崎市役所 議会棟2階 議員総会室

～次第～

- 1 開会
- 2 将来像の実現、課題解決に向けてできること～ワークショップ形式～
- 3 閉会



■ 市民部会開催の趣旨 ■

本市のまちづくりの方向性を示す第5次尼崎市総合計画は、2022年度までの計画であり、現在、2023年度からを計画年度とする第6次尼崎市総合計画の策定に着手しています。

この度、都市の将来像やまちづくりの進め方などを定める「まちづくり構想」の策定にあたり、学識経験者の部会長と市民委員で組織する市民部会（7名）を立ち上げ、「尼崎らしさ」をふまえた将来像などについて4回の議論を行いました。

1 内容（第4回）

最終回となる第4回目は、これまでで出た「尼崎らしさ」や「まちの将来像」の実現、課題解決に向けて、それぞれができることについて意見を出し合い、全体で共有を行いました。

今後については、市民部会で出た意見などを踏まえ、学識経験者で組織する専門部会において、「まちづくり構想」の検討を進めていきます。

2 意見概要（将来像の実現、課題解決に向けてできること）

意見

市民・事業者ができること

- ・ たそがれクリーンキャンペーンに小中学生の参加
- ・ まちをきれいにクリーン運動に参加
- ・ 失敗できる、再チャレンジできる空気をつくる
- ・ 「この指とまれ」ができる（困りごとなどを持ち寄る）
- ・ 親から子へ尼崎の良いところを教える
- ・ 大人からあいさつする
- ・ 1日1善（お互い気持ちよく）
- ・ できる範囲で緑化ガーデニング
- ・ 色々な国の文化を学び、知ることによって受け入れることができる
- ・ 自分で主体的に学びの機会を探す・創る（知人を巻き込む）
- ・ 「ユニーク」であることの価値を知る
- ・ 大学生の教育サークルをつくる
- ・ 災害時に備え、備蓄ローリングストックの実践
- ・ 普段から災害が起きたときの準備をしておく
- ・ 防災についての学び

市民・事業者ができること（続き）

- ・地域のゴミ拾いやイベントへの参加など社員が地域に愛着を持つような取組を実施
- ・ごみを拾いやすいようにシェアゴミ箱を広く設置する
- ・地域活動（行事）への参加
- ・市民の学びの先生になる
- ・従業員への啓発（防災）
- ・社員教育として尼崎市の良さ、歴史を学ばせる（地元でのロコミにつなげる）
- ・研修の一環として、尼崎市歴史博物館見学会を社員に実施する
- ・農業リーダーの育成
- ・社員と子ども向けのマナー教育の実施
- ・高齢者雇用を促進する
- ・外国人が働きやすい環境を整える
- ・多文化コミュニティへの外国人参加
- ・気軽にできる商品の開発・販売
- ・空き店舗を一定期間無償で貸出す
- ・事業所の空きスペースの有効活用
- ・トライやるウィークの受入れ企業を増やす
- ・NPOの「BCP」策定・共有

サポートが必要なこと（行政の役割など）

- ・高齢者雇用助成金を設ける
- ・外国人受入事業に対する支援
- ・尼ノ國で地元企業を紹介
- ・環境創生基金をつくる
- ・「しごと」の見える化
- ・企業の能力が見える化
- ・企業がまちのものをなおせることをPRできる（仕組み）
- ・環境改善に貢献する事業者としてPR
- ・みんなの尼崎大学国際部への外国人派遣
- ・日本語教室オンライン化の活性
- ・大手の企業が多いまち（誘致）
- ・風俗関係の出店規制
- ・街灯設置の促進
- ・見守りカメラを市内全域に設置
- ・バス利用者に活動参加のPR
- ・尼崎市のHPをわかりやすく
- ・市が何をしているかわかりやすくPR
- ・市のイベントおまとめサイト
- ・市HPやSNSによるPR
- ・郷土会を通じて故郷のなつかしい食べ物を高齢者に届ける
- ・ボランティアセンターをもっとオープンにする
- ・チャリティ減税
- ・学びの活動の運営に対する支援や団体とのつなぎ役
- ・取組に熱心な事業者へのインセンティブ
- ・「お助けポイント」で市の施設を無料で使用できるようにする
- ・災害が起きた時、要支援者の把握に努める
- ・意識啓発を行うとともに、災害が起きた時に情報発信を行う。
- ・講座の実施
- ・発表の機会を増やす
- ・個人の能力がみえるまち（仕組み）
- ・市の施設のルールづくり
- ・高齢者向け自転車交通教室の実施
- ・自転車免許証の発行
- ・サイクルロードを増やす

協働でできること

- ・市民が「得意」を自覚できる手助け
- ・栽培方法のレク
- ・まち全体で住み開き
- ・家族や職場以外の人と過ごす時間をつくる
- ・市内の休耕地を地域農園にしてみんながつどえる場に。作物は子ども食堂などへも提供
- ・「トングマン」を養成し、各地で美化を競う
- ・クリーンサークルをもっとつくる（ボランティア清掃スタッフ
- ・サマセミや尼崎大学の規模を拡大し、市全体で「学びday」のようなイベントの開催
- ・「みんなの尼崎大学」を観光資源化
- ・市民、事業者、行政で全市的な防災訓練を実施する
- ・防災訓練の実施・参加
- ・「勉強を教えられる人」の利用者サポート（ガイド、仕組みづくり）
- ・市民と一緒にシティプロモーション
- ・楽しいチャリティをつくる
- ・チャリティショップ（目的ごと）を増やす
- ・チャレンジチャリティショップ（チャレンジを支援するために売上げを使う）
- ・中高生に自治会をまかせる
- ・地区別対抗の取組
- ・メディアの強化
- ・若手アーティストのネットワーク
- ・定住外国人向け日本語教室でボランティアを増やす、尼ツアーの定期開催
- ・移民背景を持つ人たちとスポーツやウォールペイントなどの機会を増やす
- ・警察と連携して暴力団排除のキャンペーン
- ・地産地消で100%まかなえるようにする
- ・新生児を持つ家庭への定期訪問（生協）
- ・単身世帯と子育て世帯をつなぐ居場所づくり
- ・「勉強を教えられる人」に登録する
- ・小中学校の放課後に大学生が学習支援
- ・市内大学からの人材派遣
- ・「小さい」仕事を創出し、有償ボランティアを増やす
- ・（街灯設置のための）基金を作り、社協で管理
- ・工業系大学との連携
- ・小・中・高校と多文化コミュニティとの連携
- ・学校との連携（逆差別意識の抑制）
- ・学校間の交流（小学校同士など）
- ・小中学校の先生と事業者のネットワークをつくる
- ・多文化コミュニティへの参加のプロモーション
- ・共生関連団体による外国人参加サポート
- ・「みんなの尼崎大学」国際部イベントの参加
- ・外国人市民会議の実施（住みやすさ/住みにくさを共有）
- ・「みんなの尼崎大学」国際部の新設
- ・多文化コミュニティの新設

実現に向けた仕組み

- ・「勉強を教えられる人」の登録制度
- ・困っていることを伝える場
- ・「やりたいこと」「必要なもの」をシェアできるツール
- ・しんどい家庭の児童・生徒が特別な経験ができるしかけ
- ・空き地をシェアできるしくみ
- ・空き店舗などをスタートアップしやすいように提供する仕組みづくり
- ・事業者同士が手を取りあえるシステム
- ・「必要ないこと」「もの」を匿名でシェアできるツール
- ・「これできますバンク」に登録できるしくみ
- ・「助けてくださいバンク」に登録できるしくみ
- ・尼崎で今活動している若者が学校の総合学習に参加を促しゲスト講演する仕組みの構築
- ・失敗大笑（挑戦しやすい仕組み）
- ・アイデアチャットの仕組みづくり
- ・地域の事業所と市民が近くなるために「見学会」や「大人トライやるウィーク」の開催
- ・ユースカウンシル（若者議会）を設置し、そこで出た思いを大人が実現サポート（市民主体で開催）
- ・コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）の仕組みづくり・促進
- ・地域の自治システムの再構築
- ・オンライン請願・提案システム
- ・学びの場の設定（市民と事業者のマッチング）

3 当日のようす

